

## 令和2年度 学校関係者評価実施結果報告

1. 日時：令和3年3月12日 15:00～16:00
2. 方法：Web会議及び評価表に基づく評価（欠席者は書面評価）
3. 学校関係者評価委員
  - 1) 地元企業関係者：公益社団法人高知県看護協会会長（出席）
  - 2) 看護管理者：医療法人須藤会土佐病院看護部長（出席）
  - 3) 卒業生：NHO高知病院看護師長（出席）
  - 4) 高等学校関係者：高知県立高知西高等学校長（欠席）
  - 5) 教育に関する有識者：高知県立高知若草特別支援学校長（欠席）
4. 独立行政法人国立病院機構 高知病院附属看護学校 出席者
  - 1) 学校長 2) 教育主事 3) 事務長 4) 実習調整教員
5. 評価対象：令和2年度 学校運営方針の取り組み実施状況
6. 事前送付資料：
  - 1) 学校関係者評価委員会規程
  - 2) 令和2年度 学校運営方針 自己評価書
  - 3) 令和2年度 学校運営方針 評価表
  - 4) 参考資料 学校案内（2020版）
7. 評価基準：4段階評価及び総評自由
  - 4：大いに達成できている（大いに成果がみられる）
  - 3：達成できている（成果がみられる）
  - 2：あまり達成できていない（あまり成果がみられていない）
  - 1：全く達成できていない（全く成果がみられていない）
8. 評価結果

1 質の高い教育実践のために、教員の教育実践能力の向上と効果的カリキュラム運用を図る。		自己評価	他者評価 <sup>①</sup>
1) 研究授業の積極的な取り組み（3回/年）と他校の研究授業参観による授業力の強化		3	3
2) 方法論演習科目の補助教員サポート体制による教育内容と教育方法の強化		2	3
3) 各自研究テーマに基づく研究成果の発表（3題/年）と教育実践への活用		2	2
4) 実習指導力向上のための指導場面の教材化の可視化		3	3
5) 全実習領域の「知の構造」の作成		4	4
6) 第5次カリキュラム改正趣旨に応じたカリキュラム編成の検討（2回/月）		3	3
総評	<p>コロナ禍で、医療機関として学生の健康管理や生活指導を含めた様々な対応に気を遣いながらの1年間、あらゆる面で制限・制約が生じる状況下で、例年通りの計画を遂行することは現実的に困難だったと考える。しかし、研究授業では、新任教員の教育力向上のための取り組みや、演習において補助教員を配置したサポート体制をとるなど教育方法の工夫もされており、課題を明らかにし成果も見られている。また、「知の構造」として指導者と共有することは、本学での学びの見通しにもつながり、学びの履歴としても活用できることから評価できる取組と考える。</p> <p>第5次カリキュラム改正趣旨に応じたカリキュラム編成の検討は、外部研修も活用しながら定期的な検討が進められている。教員の負担が増大している中でも、各自の研究テーマへの取り組みを続けており、このような一定の取り組みができていないことは評価できる。今後の改善につなげられる事を期待する。</p>		

2 職員の学校経営に対する意識を高め、円滑で安定した学校運営を図る。		自己評価	他者評価 <sup>④</sup> 合
	1) 教職員間での計画的業務調整や業務協力による超過勤務の削減	2	2
	2) 節電・節約による電気料金及びコピー印刷料金の削減	3	3
	3) 学校運営マニュアルを活用した確実な業務遂行	3	3
	4) 新刊図書の充実と有効利用の推進	3	3
	5) 教材物品の効果的活用の推進、使用後の片付け整理と保管管理の徹底	2	2
	6) 防災訓練・防災教育の充実化	3	3
総評	<p>全体的にはオンラインへの対応、実習の変更などを余儀なくされた中で、効率的で円滑な学校経営、学校運営に努力されたことが伺え、学校運営に係る重要事項をきめ細かく目標設定し取り組まれていることは評価できる。コロナ感染対策のための業務量が増幅する中、限られた教員数、しかも新任教員が2名いる状況での業務調整はできたのではないかと。学校運営マニュアルの改定を行い業務内容を確認できたことは大いなる成果である。また、防災意識を高めるための取り組みが素晴らしく、学生の時に身についた防災意識を病院でも継続していく必要がある。学年担当など役割によって時間外勤務時間数に差が生じることはある程度やむを得ず、今後は可能な限り教員の負担が偏らないような調整が必要である。また、教員にとって超過勤務は悩ましい問題であり、学生を目の前にして、学生指導を時間を気にせず、十分に行いたいという思いを教員が持つことは理解できる。そのため、教員数が補充されていない中での超過勤務の削減については、退校時間を明確に示すなど、一定の線引きがやはり必要であろう。ICT（タブレット等）を活用した管理のシステム化や、生徒・教員への連絡や資料配付など積極的に取り入れ、時短、経費削減・効率化等を考えていくべき時期ではないか。また、パートなどの人員補充の要望もしていくのではないかと考える。</p>		
3 国立病院機構及び地域社会に貢献できる人材の育成と人材の活用を行う		自己評価	他者評価 <sup>④</sup> 合
	1) 効果的で効率的な学校PR、募集活動による学生獲得	3	3
	2) ホームページの即時更新、魅力ある情報発信の創意工夫	3	3
	3) 母院への就職率：25%、機構への就職率：60%、県内就職率：60%以上	3	3
	4) 国家試験対策の強化、合格水準の向上（国家試験合格率100%）	4	4
	5) 教員各自の専門性を活かした国立病院機構及び地域社会への貢献	4	4
総評	<p>コロナ禍で看護職を目指そうとする学生の状況にも変化があったのではないかと考えるが、この職業を選んで欲しいという学校の意欲や姿勢を感じる。COVID-19の感染対策を行いながら、様々な機会をとらえたイベントへの参加や高校訪問、オープンスクールの開催、ホームページの更新など、積極的に学校PRや募集活動を行ったことは十分評価できる。また、自宅学習も余儀なくされた中で、国家試験対策では個別対応など個々の学生に丁寧にかかわり指導ができており、このことが貴校の高い国家試験合格率、就職率につながっており、地域等への貢献という役割は十分に果たしている。県内就職率は前年度より高くなっており、引き続きご尽力をお願いしたい。少子化に伴い、学生数の確保はどこの教育機関も大変である。社会に必要な看護師養成機関として、受験者数を増やすためにも、さらにICTを活用したPRを積極的に行うことができると考える。</p>		
4 学生の主体性を尊重し、自律した学生を育てる。		自己評価	他者評価 <sup>④</sup> 合
	1) 学内、敷地内において明るく元気な挨拶が習慣づく土壌作り	3	3
	2) 共学（学生同士で教え合い学び合う）を目指し、学生間交流の推進と学生QC活動の積極的支援	3	3
	3) 看護学生としての自覚を持った情報管理・健康管理行動指導	3	3
	4) 日常的に全教職員で教育的ヒューマンケアリングの実践	3	3
総評	<p>感染防止の観点から学年を超えた交流の困難性があったと思われるが、このような状況の中でも出来る方法を考え、企画し実践することでの学生の学びは大きかったのではないかと考える。この体験は今後の学校生活や看護活動にも活かされると思われる。コロナ禍で、学生ひとり一人の状況を把握し、不安等に対処しながら成長を促す取り組みを教職員全員で行われていることは十分評価できる。社会人入学生や現職の看護師を活用し、一般社会で必要とされることを考える機会とし、看護師としてのキャリアの向上に「人」としての成長が必要であることを伝える取り組みなども有効ではないか。</p> <p>コロナ禍で、学生同士の活動や学生と教員との活動などやりにくい状況が多かったと思うが、今後少しずつ状況が改善される中、制限をどこまで解除するかなどの判断が必要となる。また、ICTの活用が進めば進むほど、情報管理はさらに重要となってくるため、学生・教員とも情報モラル教育を推進しなければならない。</p>		